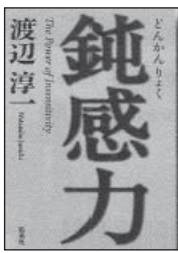


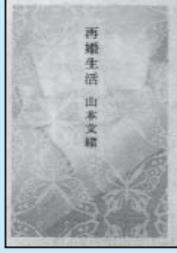
心をいやす最近の(2007年版)ベスト・エッセイ



「博士の本棚」
小川洋子／著



「鈍感力」
渡辺淳一／著



「再婚生活」
山本文緒／著

子ども時代の読書の思い出を語りだせば、私はいつでも幸福な気持ちになれる。数学の本、文学の本、野球を愛する日々、幼い息子との生活、犬と歩く道…本によってひらかれる多様な魅惑的な世界へいざなう感動のエッセイ。

著者は 1962 年岡山市生まれ。早稲田大学卒業。「妊娠カレンダー」で芥川賞を受賞し、「博士の愛した数式」で本屋大賞等を受賞する。

この複雑な現代社会をより良く生き抜くためには、「鈍感力」が必要である。中高年世代から絶大な支持を受ける渡辺淳一が説く賢く生きるための知恵。「鈍感であり続けること」の意義を様々な事例から解説し、敏感すぎる人たちへ警鐘を鳴らす。

著者は 1933 年北海道生まれ。札幌医科大学卒業。医学博士。「遠き落日」ほか数多くの著作がある。直木賞のほか吉川英治文学賞等も受賞している。

直木賞受賞。山手線円内にマンションを買い、再婚までした。恵まれすぎた人という。人にはそう見えるんだろな…。夫婦という葛藤。涙する心と孤独と病、うつ。病んだ心が静かに回復してゆく。著者 3 年の沈黙をやぶり、日常を淡々と描いた日記エッセイ。

著者は 1962 年横浜市生まれ。神奈川大学卒業。OL 生活を経て作家に。「恋愛中毒」で吉川英治文学新人賞を受賞し、「プラナリア」で、直木賞を受賞する。

2月の催しもの

とき		催しもの
3日(日)	11:00～ 14:00～	子どもビデオ劇場
10日(日)	11:00～ 15:00～	子ども工作教室
毎週木曜日	10:00～ 12:30	あかちゃんクラブ ラッコルーム
毎週土曜日	14:00～	「おはなし」と 「あそび」の広場

その他のベスト・エッセイ

- ◆ 「たぶん最後の御挨拶」 東野圭吾／著
- ◆ 「ツレがうつになりまして」 細川貂貂／著
- ◆ 「あやつられ文楽鑑賞」 三浦しをん／著
- ◆ 「人間の関係」 五木寛之／著
- ◆ 「ありがとう、さようなら」 瀬尾まいこ／著
- ◆ 「財布のつぶやき」 群ようこ／著
- ◆ 「もったいない話です」 赤瀬川原平／著

俳句

「梅一輪」 ふそう俳句会

はからずも床上げし日や梅一輪 古田 悦子
鳴き竜の応へし後の寒さかな 平松久仁子
艶福の面影のこる日向ぼこ 島田たつ子

川柳

扶桑川柳クラブ

喜びのたび削られる父の髭 高木 節子
冬晴れに子等伸び伸びと一輪車 高野瀬徳子
掛け軸の見事な筆も読みきれず 牧田 はな

短歌

「春近くして」 ふそう短歌会

そろそろとペダル踏みつつ仰ぎ見る 大西 栄子
御岳清し春近くして 鈴木 淑子
ひさびさに杵搗きの餅粘りある 中山 哲也
味かみしめぬ吾もかくあらん
あかつきの入れ食いどきの堤防に
鯖の出すおと哭けるごとしも

詩吟

「冬夜書を読む」 菅茶山

雪は山堂を擁して樹影深し
檐鈴動かず夜沈沈
閑に乱帙を収めて疑義を思う
一穗の青燈 万古の心

「意」

雪は山中にある我が書齋をおおい、樹木も深くつずもれ夜は静かに更けていく。読書をやめ静かに書中の疑義を考えれば燈火のもと、心は古の聖人、賢者に接するの思いである。

正風流二代目 山内 正風